

2013年度 学校評価（小学校）の報告

「学校教育法」「学校教育法施行細則」に基づき、2013年度に実施した「学校評価」の内容をご報告いたします。

(1) 報告までの概要

学院に学校評価委員を設置する。調査対象は、学院の小学校の教員（非常勤講師は除く）とし、12月末に実施、3月に集計、4月に理事会報告し、職員協議会で検討した。

(2) 評価項目と評価方法

I：学校運営、教育内容、児童の指導・支援、教員研修・資質向上の4つの項目に分類し、それぞれについての評価の観点を立てて実施した。

II：評価方法

4段階の評価を行った。

A：よくあてはまる

B：ややあてはまる

C：あまりあてはまらない

D：まったくあてはまらない

(3) 重要テーマと重要目標

I：あったか教育

II：一人一人を大切にする教育の実践

数字は%を表しています

分類	評価の観点	評価項目	A	B	C	D
学校運営	私学の独自性	建学の精神	4	75	21	0
		愛校心	17	75	8	0
		宗教教育	25	71	4	0
		相互信頼	17	83	0	0
		家庭との連携	4	67	29	0
	教育課程	教育計画	21	71	8	0
		指導目標の一貫性	17	67	17	0
		教育テーマ	21	71	8	0
	教職員連携	教員・教科間連携	17	67	17	0
		英語教育	13	58	21	8
		会議の有効性	4	79	17	0

	財務関係	財務に関する意識と財務状況	4	75	21	0
	専門委員会	検討委員会 連絡委員会	8	58	33	0
	情報公開	ホームページの活用状況	17	58	25	0
		授業公開状況	17	71	13	0
	危機管理	役割分担	8	63	29	0
		危機管理対応状況	8	58	33	0
	開かれた学校づくり	地域交流	4	46	50	0
教育内容	情報教育	情報モラル指導	13	83	4	0
	人権教育	研究体制	0	58	42	0
		教育体制	4	58	38	0
	環境教育	環境問題意識向上と実践	21	63	17	0
		実践的態度の育成	25	58	17	0
	児童会活動	児童会活動支援状況	17	50	33	0
	教科指導	理解度の把握	29	71	0	0
		能力の伸長	21	63	17	0
		テスト	17	79	4	0
		読書推進	25	67	8	0
		委員会・クラブ活動	17	71	13	0
奉仕活動		17	63	21	0	

	その他	学校行事	8	75	17	0
		対外活動	8	75	17	0
		スポーツ・ 芸術文化	8	71	21	0
		国際理解	8	71	21	0
児童の指導・支援	児童の指導	指導方針の 一貫性と生活指導	17	79	4	0
		家庭との連携状況	17	79	4	0
		個別指導	17	83	0	0
	児童支援	学習指導	21	71	8	0
教員研修・資質向上	教員研修	教員の資質向上	8	67	25	0
		教材研究	21	71	8	0
		宗教教育 建学の精神研修	8	54	38	0
		校内研修	8	83	8	0
		公務執行	29	71	0	0
		初任者・ 教員のサポート状況	13	63	17	8
		校外研修	8	75	17	0
		研究成果の 共有状況	0	75	25	0

#### 学校運営の改善点

建学の精神を教職員・児童・保護者に浸透させる。

- ・女子教育、少人数制の良さを広く世に知らせる。
- ・宗教の授業等で、信愛の歴史や創立者の心に触れる機会を多くする。
- ・信愛教育の原点に戻り、今後の教育を推し進める。

愛校心を、教職員・保護者・在校生・卒業生が持つ。

- ・「卒業生の集い」を開くことにより、社会的に信愛の認知度をさらに高める。
- ・卒業生ネットワークの活用

家庭との連携を図る。

- ・保護者対象の信愛講座等を開き、「信愛の心」を知り、協力を頂く。
- 指導目標の一貫性と全教職員の共通理解を図る。
- ・研修、生活マニュアルを年度初めに再度読み合わせる時間を設け、共通理解を図る。
  - ・6年間の目標を持った指導を行う。
- 担任と専科教員間の連携を図り、相互理解のもと、信頼関係を築き教育活動を行う。
- ・専科の授業も積極的に参観し、教員間の更なるコミュニケーションを図る。
- ホームページの活用と更新
- ・教育の方針、信愛教育の特徴、児童の様子等がもっとわかるよう、更新を定期的に行う。
- 授業公開を頻繁に行い、保護者の理解と協力を得る。
- ・一日自由参観日を設ける。
  - ・土曜日学習を公開参観してもらうことにより、見直すところがないか検証する。
  - ・オープンスクール内容の充実を図る。
- 危機管理マニュアルのもと、警察消防との連携を図りながら安全対策を行う。
- ・教職員対象の訓練を毎年行う。
  - ・児童が在籍しているときの、不審者訓練の実施
  - ・学院危機管理委員会の実効性ある対策を考える。
- 地域交流の活性化を図る。
- ・地域や地域の方との交流を積極的に行う。

### 教育内容の改善点

情報発信に伴う責任と、モラル面に留意する。

- ・文章表現、品位、言葉遣いの指導を、教職員も含め徹底する。

人権尊重、障がい者に対する研究体制組織を確立する。

- ・校内研修会の設置
- ・勉強会や外部講師の招聘
- ・支援学級の設置

環境教育の実践的態度の育成を図る。

- ・校内美化の指導
- ・施設、設備を大切に使うことの指導
- ・清掃、美化の大切さを教える指導

児童の理解度に合わせた学習指導を行う。

- ・算数科以外の教科もITの導入を図る。
- ・達成感を味わうことができる授業を行う。

委員会・クラブ活動に積極的にかかわる児童の育成

- ・さらに主体的に関わる児童の育成
- ・奉仕活動の機会を増やす。
- ・各種コンクールや催し等に積極的に参加しているので、今後は、スポーツ分野にも広げる。

### 児童の指導・支援

個別指導の充実を図る

- ・学習障がい児童への対応部署をつくる。

### 教員研修・資質向上

教員間で、授業内容の評価と意見交換を活性化する。

分かり易い学習指導のための教材研究に一層励む。

- ・慣れから脱却し、新任のつもりで学習指導に当たる。

宗教教育や建学の精神を学ぶ。

- ・全教職員で研修する機会を設ける。

初任者や経験の浅い教員のサポート体制を整える。

- ・新任時は、指導教員を付ける。

研修内容の共有化を図る。

- ・研修会や研究会に参加した成果を、他の教員とともに共有する。
- ・そのための報告会を設ける。

### その他

- ・女子教育の邁進